

巻 頭 言

平成 17 年は、公立大学図書館協議会の発足からちょうど 50 年の節目の年でした。公立大学図書館の半世紀の歴史をふり返り、次の半世紀への道筋をさぐる途上にあつて、まだ先の見えない転換期のただなかの一年であつたように思います。

大学の学術情報を預かる中核施設として、情報の高度電子化への対応、情報サービス機能の高度化、知財・情報の社会開放等々、大学図書館の高度な情報機能と社会的役割への期待がかつてなく大きくなり、図書館職員の専門性を発揮した大学の教育・研究・社会貢献における積極的な役割が期待されています。今はまさに、図書館機能の質的転換期にあるということができるといえるでしょう。

こうした社会状況の中、公立大学協会図書館協議会は、相互協力委員会において懸案の電子ジャーナル・コンソーシアム構築に取り組み、加盟館の拡大と出版社・学協会との契約交渉を重ねています。さらに、副会長館を代表として国公立大学図書館協力委員会に参加し、著作権、コンソーシアム、研修会・シンポジウム等、国公立の壁を超えた大学間の連携協力のもと協議を続け、大学図書館の学術的・社会的機能向上のための努力を着実に積み重ねています。18 年度には、公立大学から横浜市立大学図書館が国公立大学図書館協力委員会の委員長につき、副会長 4 館の協力体制で重責を担っていくこととなりました。

一方では、公立大学が設置者の判断において公立大学法人としての道を選択できることとなり、既に公立 7 大学が法人化しています。大学図書館をめぐる環境も早いテンポで変わっています。そのような中だからこそ、課題を共有する公立大学図書館の相互支援、国公立大学図書館の相互協力を大切に、公立大学図書館としての独自活動を着実に継続して、その存在感をおおいに高めたいものと思います。

最後に、日頃の館長・職員の皆様の献身的なご努力に敬意を表し、この一年の協議会運営へのご理解とご協力に深く感謝を申し上げる次第です。

平成 18 年 3 月

公立大学協会図書館協議会会長
山口県立大学附属図書館長
市 村 孝 雄